

研究課題	2.2 メソアンサンブルを利用した決定論的予測技術の改善
研究期間	令和4年度～令和5年度（2年計画第1年度）
実施官署	札幌管区气象台、仙台管区气象台
担当者	（札幌管区气象台）山下日出雄、米川博志、野村達郎、荻原弘堯、朝比奈聡司 （仙台管区气象台）小笠原敦、森川浩司、池田翔
担当研究官	[台風・災害気象研究部] ○小野耕介
目的	気象研究所で開発した MEPS 複数シナリオ技術を、地方官署が注目する顕著現象に適用することで、現業的な観点から精度の良いシナリオの選択及び予測精度の向上を目指す。一方で、現業的な観点から得られる知見を基に MEPS 複数シナリオ技術の高度化を図る。また MEPS を利用した事例解析の議論を通じて、ユーザーのアンサンブル予報に対する理解を深めることを目指す。
研究の概要	1. MEPS 特性及びシナリオ作成・選択技術の紹介。地方官署より注目する顕著事例の提案。 2. 気象研究所にて、提案事例に対して MEPS 複数シナリオデータを作成・提供。 3. 地方官署にて事例の解析を行う。検証スコア等の計算は気象研究所が支援。 4. 解析結果について Web 会議を利用して議論することで、MEPS シナリオの現業的な有用性を検討するとともに、MEPS シナリオ作成技術の高度化を検討。 5. 府県研究会等における原稿作成及び発表を通じて成果をまとめる。
令和4年度実施計画	1. Web 会議により、気象研側からメソアンサンブルの特性及び複数シナリオ選択技術の紹介を行うとともに、地方官署より注目したい事例の紹介を行う。 2. 注目する事例について、気象研側で複数気象シナリオを作成し、地方官署側へ提供する。 3. 地方官署により複数シナリオデータを利用した事例解析。気象研側で検証スコア等の計算を実施。 4. Web 会議により複数シナリオの有用性を検討するとともに、複数シナリオ作成方法の高度化についての議論を行う。 5. 地方研究会等により、成果の報告・まとめを行う。